

## 早稲田大学 法学部 現代文 講評

### 〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	90分
特徴・その他	最近の特徴点である160字程度の論述問題が今年も出題された。昨年と比べ、論述問題を含む大問は、やや易化したが、残り的大問は、かなり難問化した。

### 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
二	長文読解問題 (「いる」と「あ る」の差異につ いて)	昨年と比較すると、かなり難問化し、微妙な設問が増加した。選択問題については、三より難しい。この大問については7割程度でも十分合格レベルに達する。	やや難
三	長文読解問題 (「差別」について)	本文も、設問も、ともにレベルが高いが、昨年に比べ、やや易化した。最後の論述問題も、昨年に比べ書きやすい。	やや難

### 〔総合コメント〕

<p>二、三を総合的にみると、昨年と、ほぼ同レベルである。本文、設問ともハイレベルであり、高いレベルの読解力が要求されている。</p> <p>三については、論述問題をいかに手早くまとめるかがポイントになる。なお、三は、「早大現代文」(夏期講習)のテキスト <span style="border: 1px solid black; padding: 0 5px;">3</span> と同一論点であった。</p>
--